

会議録（概要）

会議名称：第2回 上島町学校の在り方検討委員会

開催日時：令和7年6月22日（日）10:15～11:40

開催場所：弓削地域交流センター 大ホール

出席委員：15名

欠席委員：3名

事務局：学校教育課

会議次第：1 開会

2 教育長挨拶

3 委員・事務局紹介

4 議事

(1) 会の公開について

(2) 前回配付資料について

(3) 学校適正配置について

(4) 今後の検討委員会の予定

5 閉会

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員・事務局紹介

変更のあった委員がいたため、委員・事務局の自己紹介を行った。

4 議事

(1) 会の公開について

事務局より、原則公開で行うことが提案され、承認。

(2) 前回配付資料について

第1回配付資料のうち、児童数の間違いがあったため、説明。

(3) 学校適正配置について

（事務局・B）

前回、教育委員会案が提示されないと議論が深まらないとの意見が多く出された。所管課である教育委員会学校教育課としては、既存の施設を活用し、統合を進めるようにしたいと考えている。小中学校別の統合について、メリット・デメリットを提示した。本日の資料に付け足し等を行った後、適正配置について意見交換をしていきたい。

（E 委員）

適正配置とはどういうことか。説明を求める。

（事務局・B）

小学校は複式学級が増えている。ある程度の人数での学習、活動が効果的であると文部科

学省も示している。上島町はその基準にたどり着いていない。統廃合を考えることで、適正な配置と考えている。

(K 委員)

この学校適正配置案は複式学級を無くすということが最低条件にある。教育環境は、複式学級解消が最低条件として出された案だということか。

(事務局・B)

複式学級の否定、複式学級の解消だけを目的にしているわけではない。今後の児童生徒数の推移を見ると今後も減少傾向である。様々な集団活動が難しくなっているのが現状である。複式学級解消が最低限というわけではないが、それも考慮していただきたいと思う。

(K 委員)

この検討委員会で話し合い、地域のために複式学級があったらいいとなれば、今回の案以外も検討の余地がある、検討するということか。

(事務局・B)

今回の案は、学校教育課の考えた案である。既存の施設を使って統合と今のところは考えているが、いろいろな案を出し、検討していく材料にしていきたいと思っている。

(K 委員)

了解した。

(D 委員)

C 地区の自治会で、自治会総会で住民から意見をいただいた。大きく三つに集約した。1 つは、心情的には反対だが、現実的には賛成せざるを得ない。2 つめは、5 年後 10 年後を考えると、一気に小中各一校体制にするべきではないか。3 つめに C 保育所保護者からの要望を踏まえ、C 保育所と C 小学校の統合を連携してほしい。

(I 委員)

C 小学校保護者会を開催し、保護者の意見を取りまとめた。保護者会としては、統合に全員賛成である。C 小は、全学級が複式で、デメリットを感じる保護者がおり、統合については 1 校にということで一致した。児童数は今後著しく減少傾向なので、2 校にして統合より 3 校を一度にすべきとの意見が出た。もう一点、最短年度での統合を希望している。教育課程の関係で、複式解消に 2 年間は必要とのことなので、令和 10 年度の統合を希望する。

(L 委員)

C 保育所もできるだけ早期の小学校 3 校統合、中学校も統合に向けて動いていただきたい。保育所も難しい問題を抱えているので、できるだけ早期の統合を希望する。個人の主張であるが、統合しないと、複式学級ありきになる。複式学級は、親は全面的によしとしてないのではないか。5 年生で修学旅行、6 年生で自然の家というのは、自分たちの頃とは全然違う。小学校最後の楽しみが 5 年生は違和感がある。できれば複式はなくし、子供のあるべき姿で過ごさせてやりたい。

(E 委員)

小規模や統合によるメリット、デメリットを前回配っており、これに基づいて今回学校適正配置について新たにメリット、デメリットが出された。デメリットは少なくなっているが、解決できたのか。デメリットをどうすれば解消できるか。解消することですべてがクリアになると私は考えている。デメリットを解消しないと最後までこれが引っかかってくる。役場、教育委員会として、できること、なぜできないかということを出さないといくら検討しても、予算の関係等でできないとなってしまう。解消方法があるのならば、それを提示すると前進するのではないか。このままでいくと、デメリットが盛り返してくる。解消するように努力していけば簡単に行くのではないか。

(E 委員)

B 保育所保護者会では、8割方、小学校の統合は一応賛成ではあるが、不安も多い。現状や人数の推移を考えると統合がいいのは概念的にはわかっている。実際統合した時にデメリットについて詰められてない状態で、概念で統廃合した方がいいとなっているので、統廃合に進んだ時に問題が出てきてしまう。ここにメリット、デメリットが書いてあるが、移動距離についてバス利用では何時に家を出るのか。例えば6時や6時半となると、無理だということになってしまう。

D 小を更新した場合、耐用年数はどのようになるのか等わからないことが多く、不安がある。概念ではなく詳しく提示しなければ難しいのではないか。一つ一つ不安を洗い出し、解決してほしいという声が多いので、お願いしたい。

(J 委員)

D 小学校でも、アンケートを実施した。結果としては、「現状通りを希望」が過半数だった。統合のデメリットを不安に思っている方が多い。「小学校の統合を希望」との回答もあり、低学年になるにつれて増加傾向であった。その他では、各島に受け継がれてきた文化・風土があるので、各島に小学校を続けてほしい、統合は児童がもっと少なくなってからでいいのではないか、その土地を選んで、子育てしている人もおり、このままで子育てしたい、すべてを弓削に集約させようとしているので、受け入れられないなど学校の問題だけではなく、不信感があると感じた。

D 小学校は昨年創立150周年を迎えた。地域で子供を見守り、地域で子どもを育てられて、大人たちは島の宝である子供たちの成長を楽しみにしており、子供たちの存在が生きがいであると言われていた。ゆめしま海道が開通して、考える機会が与えられた。学校の在り方について、地域・学校・行政・民間で話し合い、前向きに進むことを願っている。

(M 委員)

D 保育所の保護者の意見では、小学校の子供がいないので、現段階では子供のためにどうするのがいいかわからないという意見があった。学校統合については児童数の減少を考えると反対ではない、中学校も部活の幅が広がるのではないか。人数が少ないと競争心や仲間意識などが芽生えにくく、統合に前向きであるという意見もあった。統合するなら小学校は1校にという意見もあった。統合後の浮いた費用の使い方やバス通学について、また学童

や送迎など、細かいところも決めてから統合してほしい。通学に関してバスは必須である。

(H 委員)

B 小学校のアンケート結果は、統合希望が半数であった。現状希望いたが、今後統廃合が避けられないため、統合も視野に入れているという回答もあった。統廃合についてのメリット、デメリットをもっと知りたいという意見があった。中学校では今治地区と合同での部活動が多くあるが、まずは町内合同がよいのではないかという意見もあった。保護者と教育委員会の合意を図ったうえで、準備が整い次第統合してはどうかという意見になった。

(E 委員)

実際に小学校を一つにした場合に、改修や予算を考える必要がある。補助のことも踏まえて行政側は出すべきである。意見がまとまってから出すのでは遅い。もうすでもう統合してもよいという意見が出ている。予算だけでなく、防災や避難施設も踏まえて出すべきである。住民やPTAは学校のこと、自分の子供のことはわかるが、地域全体のことを考えるのは難しい。行政側がしっかり出さないと、進まないのではないか。

(F 委員)

小学校、保育所、中学校も同じ進歩でやる方がよい。一貫した体制が必要である。事務局として、統廃合の期日を出して進めるべきなのかとも思う。関係者はすぐにでも統合できそうな印象である。

(事務局・A)

統廃合する時期によって、最終的な結論を出す時期は変わる。統廃合の最短で考えられるのは令和10年度。10年度に統合するのであれば、少なくとも今年中ぐらいには結論を出しておく方が、今後の準備がスムーズに進む。

(E 委員)

冒頭でPTAからアンケート結果が口頭で出された。この場で口頭で言われても考えながら議論するのは難しい。事務局でまとめたものを出すべきである。間に合わない時は口頭でもよい。事務局も大変だと思うが、物事を進めていく上では必要である。また、委員の出席回数も軽減すべきである。

(J 委員)

できれば町内共通のアンケートを教育委員会からしてほしい。

(A 委員)

教育委員会から統合を基本としたいという提案があった。児童生徒数の推移を見ると、小・中学校とも1校ではないか。場所はまだ決まっていないが、今回の資料では、具体的に示している。10年経ったら複式になってしまう。だから統合の在り方を検討しているので、もっと具体的に話をすべきである。1校か2校か。そこを決めなければ、話が進まない。中学校はすでに2校になっている。小学校は、生名地区の話を聞いていると、できるだけ早くとも言っている。具体的に検討するのがこの会である。しかし、10年しないうちに上島町は1校にせざるを得ない状況である。するともう1校で話を進めた方がいいのではない

か。ただ、島によると愛校心、おらが学校でやってきたから、学校がなくなるのは寂しいのは当たり前のことである。しかし、諦めも必要である。地域の宝と言うのであれば、子供の負担を考えて地域を選定したり、通学方法を考えたりするのが、検討委員会である。デメリットは統合先を決定したらもっと出てくるはず。そういうことした方が充実した会になるのではないか。

(K 委員)

今回出てきた案は、1ジャンルである。例えば、各島が離島留学制度を導入し、魚島でやっていることを各小学校でやれば、現状のまま人数が増える可能性もある。その可能性を統廃合だけで片付けようとするのではなく、有識者や保護者が参加しているので、いろいろな案を出すべきだと思う。各PTAがとったアンケートを教育委員会が集約して、いろいろな方法を検討していただきたい。

例えば現状のままで離島留学を導入した場合どうなるのか、弓削、岩城、生名できるのかという可能性も考えて案を出さないと、案が偏り過ぎて、その中で検討すると、後々後悔しないか不安である。離島留学が弓削、岩城、生名でできるのかどうかを教えていただきたい。

(事務局・A)

学校教育課でも考えてはみたが、各島々で離島留学を始めるのは厳しい。まずは町内の児童生徒での統合を優先するべきと思う。離島留学をすると、魚島は民家を借り上げているが、どのぐらい募集するか、それによって、弓削高のような寮、寄宿舎を用意する必要がある。各島に用意すると、学校を建てる以上の費用が必要になる可能性もある。費用対効果を考えると、まずは町内での統合で仮に1校になった場合、それでも人数が減り、複式になった時に離島留学を視野に入れる必要があると考える。

(F 委員)

今は複式解消が主眼だと思う。離島留学で児童生徒を募集するのは大変ではないか。魚島でも、募集したから複式が解消されたのではない。今だけの複式解消を主眼としてやって、10年、15年経った時に複式になり、学校存続が危ぶまれる時には、離島留学を提案して、学校存続というような働き掛けでいいのではないか。各委員の意見によると、一つの学校でいいのではないか。

(J 委員)

地域のことも考えて、各島に学校の施設、保育所等を一つずつ置くのはどうかという案が出ている。例えば岩城に保育所、小学校は生名、中学校は弓削。子供の声が地域からなくなるのは寂しい。今回教育委員会から具体案が出ているが、いろいろな案が出てきてもよい。

いろいろ聞いていると、生名から考えるべきではないか。生名小以外も複式学級は目の前の課題である。実際に体験し不安を感じている。この間にも子供は成長しているので、すぐにでも動きたいという気持ちはよくわかる。生名地区の意見を尊重し、令和10年度ならそれを考えて、話し合いができればいい。

(C 委員)

各島1つは、前回私も提案した。弓削に集中するのではと心配している方もいるので、まず、各島1つと決めた方が安心感があっていいのではないか。

Eでは、役員が高齢で、よくわからないが、統合には賛成である。当事者のPTAと行政で話し合い、任せたいとの意見がほとんどであった。

個人的な意見ではあるが、J委員も言ったように、統合を前提として、早めに各島1つ、1校にすれば、平等な感じになるのではないか。

(事務局・A)

地区・地域の意見はもちろん大事であり、各地域に1校を否定するものではない。ただ、児童生徒の教育環境を第一に考えていただき、その結果場所が決まるという方向で事務局としては考えている。

(L委員)

デメリットを出し、行政に予算について問うているが、予算については行政が責任を持たばよいと思う。子供にとって前向きな話がしたい。今回提案があった案に現状維持を合わせて、それぞれにデメリットはある。どの案にするか決め、それに対してのデメリットを排除していけばいいのではないか。

生名地区から岩城中へ通っている生徒もいる。野球がしたいという理由である。親は心配しているが、当人は楽しんでいるようである。子供は大人が思っている以上に強いと感じる。しかし、しなくてもいい苦勞を背負わせているのは、大人たちの責任ではないか。中学校1校になれば、部活動の選択が広がる。子供にとってのデメリットをなくす方向で話を進めたい。

(A委員)

保育所は親が全て送迎はしていると聞いた。共働きが多い中で、保護者と子供の負担を考えると保育所は2園かと思う。中学生は部活動について、割り切っている感じがする。送迎する親は大変だと思うが。また、町内だけでなく、土日以外でも、島外へ行っている生徒もいる。これらを少しでも和らげるのが大人の責任ではないか。

小学校と保育所を優先的にするべきである。統合先の案を出し、話した方がいいのではないか

(E委員)

保育所を1つにした場合、職員が1園に集まるので、職員が交代で出て、朝一時間早く開園すればいい。役場で考えて、対応すればいい。遠くなるというのは、親の問題である。親のことを優先に考えるのではなく、子供のために考えるべきである。都会では30分、1時間はよくある。橋が繋がって、今までと比較して考えるのは親の考え方であって子供の考え方ではない。情勢も不安定で、交通事故に遭わないように送迎していると思うが、各地域で見守り等をしてくださっているのが、前より進展している。親はもっとしっかりしなければならぬ。

今、少子化の中で、小・中学校時代を終えている。高校に入って、1クラスの30人で、

5クラス、10クラスの場合、なかなか対応できないと思う。中学校の時に、ある程度経験しないと高校、大学となると対応が難しい。中学校は自分の意見を出していく時期であり、反発精神もできる。中学校の多くの人の中で、自分が参考にできる人に出会えるのではないか。統合に関しては賛成、1校でいいと思う。今関わっている保護者が、今後も考えて1校にするというのであれば、それでいいと思う。地域の方は、それについていく方向でいいのではないか。

(H 委員)

関係ないかもしれないが、9年前に移住してきて、この島で生活したいなと思い、あっという間に9年経った。島だから橋を渡り、海沿いを通って迎えに行くちょっとした時間が、すごくいいと思っている。親としては、大事な時間を一時とも無駄にしたくないというのもわかるが、せっかく島に居ることを心が豊かになる時間と思えると、親子関係や地域との関係が豊かになると思う。こういう島であるから贅沢だと感じる。そういうことが子供たちにも伝わり、島で生活することが楽しみになり、今後の将来を考えるきっかけになるのではないかと思う。

(K 委員)

各島に1校ずつ小学校があっていいのではないか。歩いて登下校する中で、地域の人との挨拶等学ぶこともあり、それが島の教育の豊かさだと思う。学校で多くの人数の中で学ぶことも考えるべきであるが、例えば全部バス通学にしたら、個の学びもなくなる。この島でしかできない教育を実施することで、学校以外で学ぶことができ、島に愛着を持って、また帰ってくる子がいるもではないか。そこを人数だけで合理的に考えてしまうと、島の担い手が育つか不安である。民主主義で、多数決で決まると思うが、いろいろな可能性を出して、その中で話し合い、決めていきたい。

(E 委員)

次回もまた、意見を出し合う感じで進めるのか。

(事務局・B)

今回いただいた意見をまとめ、それを基に話し合いをしたいと考えている。

(E 委員)

今回、統合という方向で、概ね進んでいる。これに対して、教育委員会がどのように提案してくるか。今回いろいろな意見が出ているので、それぞれに関してどのようにしていくか前もって文書で示し、それを基に検討するようにしていただきたい。また、今回と同じようなことをしているとだめである。やはり、話し合いは前進していくように、事務局も考えて会議を開いてもらいたい。

(事務局・B)

前回の話し合いを受けて、今回の資料を用意した。次回も今回の意見を反映した資料を作成し、事前に提示するつもりである。今回までも、前進していないのではなく、意見をいただきながら少しずつではあるが、前進している。ご協力いただきたい。

(J 委員)

次回の予定はいつか。仕事や家事もあるため、なるべく早くに教えていただきたい。我々委員の負担を考慮し、なるべく短い期間・回数でとの発言があったが、この1年は、一生懸命頑張ろうと思っているので、会議を増やして、いろいろな意見が出るようにしてほしい。

(4) 今後の検討委員会の予定

(事務局・B)

概ね2か月に1度程度の開催予定であったが、議論を進めるため、開催スパンを短くしたい。日程は決まり次第、案内する。

(各委員)

<異論なし>

5 閉会